

鶴田町振興作物（ズッキーニ）の

ス ス メ

— 鶴 田 町 —



○鶴田町振興作物とは？

鶴田町では、町農業生産力の向上と経営の安定を図るため、町が指定する作物（振興作物）の作付けを行う農業者に対し、補助金を交付し支援をおこなっています。

鶴田町の振興作物は、『収益性が高く、主力作物の支障とならない作物』であるズッキーニで、これらの新規作付および規模拡大に対し、補助金を交付します。

ズッキーニ

【経営指標の目安】

- 標準経営所得：経費差引後 **19.3万円**／10アール（所得率58%）
- 標準労働時間：240時間（30日*）／10アール
*8時間で1日と換算した場合

（H29年3月発行 西北地域県民局地域農林水産部作成 野菜栽培の手引きより）

○交付対象者の要件（すべて満たす必要があります）

- （1）鶴田町に住所を有する者であること
- （2）本人及び世帯員に町税等の滞納がないこと
- （3）補助金交付後においても肥培管理及び出荷を継続できる者であること

○補助金額について

区 分	内 容
①新規作付事業 (新規に作付を行うもの)	対象経費：初期投資費用 (種苗費、肥料農薬費、資材費) 補 助 率：4分の3（上限114,000円） 要 件：作付する面積が2アール以上
②規模拡大事業 (作付規模を拡大するもの)	対象経費：拡大に伴う投資費用（新規作付と同様） 補 助 率：2分の1（上限76,000円） 要 件：規模拡大分面積が2アール以上

○申請方法

希望される方は役場 産業課 農業振興班へ事前にご相談ください。

その後、申請書、経費を証明する領収書の写しを提出のうえ、現地確認を経て交付決定し、交付となります。

I ズッキーニ

1 経営の特徴

- 初期投資が少なく、栽培技術も容易で、初心者でも取り組みやすい。
- 水稲育苗ハウスを活用してハウス栽培ができるほか、露地でも栽培が可能。



○10aあたりの収益性

粗収益(円)	経営費(円)	所得(円)	所得率(%)
336,280	142,550	193,730	58%

※単収1,400kg、価格240円/kgとした場合

出展:野菜栽培の手引き 平成29年3月(西北地域県民局地域農林水産部)

○主な作業と10aあたりの労働時間

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
ハウス栽培		は種		収 穫			
労働時間(10a)		5	5 10 10	40 40 40	40 40 40		270
露地栽培			は種		収 穫		
労働時間(10a)			5 5 10	10 10 40	40 40 40	40	240

労働時間:野菜栽培の手引き 平成29年3月(西北地域県民局地域農林水産部)から引用

2 作型

作型	特徴
ハウス栽培	水稲育苗後のハウスを利用。5月下旬～6月上旬には種し、7月上旬から8月下旬にかけ収穫。
露地栽培	6月上旬～中旬には種し、7月下旬から9月上旬にかけ収穫。

3 主要品種

品種名	果皮色	特 性
グリーンポート 2号	濃緑色	低節位から雌花着生に優れる。吸肥力が強く、基肥は1割程度多めとし、追肥も早めに行う。
イエローポート	黄色	生育初期から草勢が強く、生育後半まで安定している。生育期間中、安定して雌花が着く。

4 畑の準備

- ・ 倒伏や折れ防止のため、露地栽培では風当たりの強いほ場への作付けを避けるか、防風ネットやソルゴーを利用した防風対策を行う。
- ・ 日当たりが良く、保水・排水性が良い場所を選ぶ。地下水位が高い水田転作畑では、明きょの設置や高うねにする等の排水対策を行う。
- ・ は種1か月前に完熟堆肥、土壌改良資材を施用する。
- ・ は種1週間前に基肥を施用、耕起・うね立て、マルチ張りを行う。

【施肥の例】10a 当たり

肥料名	基肥	追肥	チッソ	リンサン	カリ	備考
完熟堆肥	2,000					
苦土石灰 (M-10)	120					pH6.0~6.5必要量※1
CDU化成S555	70		10.5	10.5	10.5	
CDU化成S555		80	12.0	12.0	12.0	又はトミー液肥
合計			22.5	22.5	22.5	

※1 新規畑では土壌分析に基づいて、マググリーン等を追加する。

(1) 栽植様式 (10a 当たり)

項目 作型	栽植様式 (1条植え)			品種名
	株間	条間	栽植株数	
ハウス栽培 露地栽培	80cm	180cm	700	グリーンボート2号、 イエローボート

(2) うねづくり・マルチ張り

- ・ 排水の良好なほ場では畝の高さを 10~15cm とする。水田転作畑へ作付けする際は 15~20cm の高うねとする。
- ・ ハウス栽培では、かん水チューブを1うねに1本設置する。



5 は種 (直播栽培) 【時期 ハウス:5月中旬~ 露地:6月上旬~】

※ 地温 20℃以下では発芽に日数を要するので、直播は地温が十分に確保できる状態になってから行う。

- ・ 発芽を促進させるため、は種前夜に水またはぬるま湯に浸漬しておく。種子必要量は約 700 粒/10a(条間 180cm×株間 80cm の場合)。
- ・ マルチに直径 5~10cm 程度の穴を開け、は種前に 1 穴当たり 300~500cc 程度かん水しておく。
- ・ 1 穴 1 粒は種とし。深さは約 3cm とする。は種穴に土を入れた後、手のひらで強めに鎮圧する。

6 は種後の管理

(1) わき芽の除去(整枝)

- 子葉の根元についたわき芽は、10cm程度になったら除去する。

(2) 雌花の摘花

- 6節以内に着生した雌花(1~3番花)は着果しても不良果となりやすく、草勢低下の原因にもなるため、開花前に取り除く。

(3) 摘葉

- 果実を覆っている葉や黄化した古い葉は適宜摘葉する。摘葉時は、倒伏防止のため、葉柄部を長く残す。
- 一度に多くの葉を摘むと草勢の低下を起こし、曲がり果が発生しやすくなるので留意する。

(4) 交配

〈自然交配〉

- 基本的に虫媒や風媒による自然交配で受粉する。

〈人工交配〉

- 35℃以上の高温、9℃以下の低温では花粉の生産量が少ないため、人工交配(当日咲いた雄花の花弁を除去し、葯を雌花の柱頭に軽く触れさせる)やトマトーン処理を行う。
- 作業は早朝に行い、午前9時頃までには終える。



(5) 追肥

- 定植後30日頃(2番花開花頃)から概ね2週間毎に行う。

〈穴肥の場合〉

- CDU化成S555等をうねの肩部分に、1株当4g程度とする。
- 土壌が乾燥している場合、かん水も同時に行う。

〈液肥の場合〉

- トミー液肥グリーンを800倍に薄め、1株当たり1リットルかん水する。

(6) 病虫害防除

① ウイルス病

- 被害が大きく、初期は葉の黄斑、末期は葉の矮化や反りがみられ、変形果実が多発する。
- アブラムシ類で虫媒伝染するため、生育初期からアブラムシ類の防除を行う。
- 罹病株は見つけ次第、速やかに抜き取り、ほ場外で処分する。

② うどんこ病

- 葉の表面に白いうどん粉が付着したような症状が現れる。
- 肥料切れで草勢が低下した場合や、老化した葉を放置しておくとう感染しやすい。
- 生育初期から登録薬剤により防除を行い、葉が混み合わないよう適宜摘葉に努める。

③ 軟腐細菌病

- 親づるの基部に水浸状の病斑を示し、罹病株からは腐敗臭がする。
- 土壌中に存在している病原細菌が高温多湿条件で増殖し、親づるの傷口や害虫の食害痕から侵入する。
- 夏季に降雨が続くと発生しやすいため、降雨後や台風通過後は登録薬剤により防除を行う。
- 通路に敷わらを敷き、泥の跳返りを防ぐ。

④ アザミウマ類

- 果皮の表面を食害し、カスリ状の傷を付ける。
- 5月頃から発生し始めるので、多発する前に登録薬剤により防除を行う。花弁に潜んでいる場合が多いので、丁寧に薬剤散布を行う。
- ほ場周辺の雑草から飛来する場合が多いので、除草剤の使用や刈取りなどにより、雑草の繁茂を防ぐ。

7 収穫 【収穫期間：概ね 30～45 日間】

- 開花から3～4日後(盛夏期は2～3日後)、果実の長さが15～20cmのものを収穫する。
- 収穫は早朝や夕方などの涼しい時間帯に行う。
- 果実が伸長しやすいので、朝夕の2回収穫する。

